
大学教育学会ニュースレター

No.94 2013. 9. 18

大学教育学会 (*Liberal and General Education Society of Japan*)

事務局 : 桜美林大学淵野辺キャンパス内

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

TEL/ FAX : (042) 704-7014

郵便振替口座:00120-4-178891 大学教育学会

e-mail: ungakkai@gmail.com URL: <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

大学教育学会 2013 年度課題研究集会 統一テーマ「大学教育の質的転換の方向性を問う」

2013 年度課題研究集会実行委員長

山田 礼子(同志社大学)

2012 年 8 月の中教審答申では、大学教育の質的転換の必要性が提示されました。学生の主体的・自立的な学修を促す大学環境の充実やアクティブ・ラーニングといった学習方法も、質的転換を目指すうえで重要な要素として議論されています。

しかし、質的転換を巡る本質的な議論は始まったばかりであり、またその方向性も見えていないことも事実です。

アメリカでは、すでに 21 世紀のグローバル社会での市民育成を目指し、様々なアクティブ・ラーニングが取り入れられた大学教育が展開されています。

同志社大学では学生の主体的な学習を支援するための、ラーニング・コモンズが 2013 年 4 月にオープンいたしました。

そこで、そうした主体的な学習方法のひとつであるアクティブ・ラーニングとそれを支える大学環境といった視点をいれながら、基調講演では、AAC&U の Caryn McTighe Musil 博士より「アメリカにおける大学教育（共通教育）の方向性」についてグローバル社会での市民形成といった視点から、提示していただきます。その後続くシンポジウムでは、2012 年中教審答申で示された大学教育の質的転換の必要性について解説していただいた後、主体的な学習の鍵として捉えられつつあるアクティブ・ラーニングの本質は何か、なぜ主体的な学習の鍵となるのか、その是非論も含めて議論を深めていく予定です。また、課題研究をベースにした発表や大学教育学会主催によるシンポジウムなども企画されています。

晩秋の京都での課題研究集会をお楽しみください。

大学教育学会 2013 年度課題研究集会

実施要項

統一テーマ：「大学教育の質的転換の方向性を問う」

主催：大学教育学会

共催：同志社大学

期日：2013年11月30日（土）・12月1日（日）

会場：同志社大学 京都市上京区今出川通烏丸東入

【スケジュール】

プレ行事「協同学習による政策提案ワークショップ」

日時：11月30日（土）10:00～12:00

場所：良心館2階ラーニング・コモンズ内 プレゼンテーションコート

留学生、地域住民、学会からの参加者による「世界に発信する“京都の魅力”」提案

第1日：11月30日（土） 同志社大学室町キャンパス寒梅館

12:00	13:00	13:30	14:50	15:00	18:00	18:30	20:00
受付	開会 挨拶	基調講演	休憩	開催校企画 シンポジウム	移動	情報 交換会	

情報交換会場：京都ガーデンパレス

第2日：12月1日（日） 同志社大学今出川キャンパス良心館

9:00	9:30	12:00	13:00	15:30	16:00
受付	シンポジウムⅠ シンポジウムⅡ	昼食	シンポジウムⅢ シンポジウムⅣ 会長主催緊急シンポジウム	閉会 挨拶	

関連行事

11月30日（土）9:30～11:30 常任理事会（寒梅館6階大会議室）

12:00 受付開始 (寒梅館1階ロビー)

13:00～13:30

総合司会：清水 亮 (同志社大学)

開会行事 (寒梅館ハーディホール)

開催大学挨拶

真山 達志 (同志社大学 副学長・教育支援機構長)

学会会長挨拶

小笠原 正明 (北海道大学)

13:30～14:50

【基調講演】「アメリカにおける共通教育の方向性」

講演講師

Dr. Caryn McTighe Musil

(AACU Senior Scholar and Director of Civic Learning and Democracy Initiatives)

14:50～15:00 休憩

15:00～18:00

【開催校企画シンポジウム】

テーマ：「大学教育の質的転換の方向性を問う」

今回の統一テーマは「大学教育の質的転換の方向性を問う」としています。昨年の中教審の答申では、大学教育の質的転換を促す様々な方法も提示されています。そのひとつが現在多くの大学で取り入れつつあるアクティブ・ラーニングです。本シンポジウムでは、大学教育の質的転換にとって重要な意味をもつアクティブ・ラーニングとそれを支える環境について議論を深め、大学教育の質的転換がどのような形でどのような方向へと向かうのかをフロアの皆様と一緒に考えていきたいと願っております。

そのような趣旨のもと、中教審委員でもある河田悌一氏 (日本私立学校振興・共済事業団理事長) に、2012年中教審答申で示された大学教育の質的転換の必要性について解説いただき、その後、飯吉透氏 (京都大学) と山田礼子氏 (同志社大学) により、主体的な学習の鍵として捉えられつつあるアクティブ・ラーニングの本質は何か、なぜ主体的な学習の鍵となるのか、その是非論、そしてアクティブ・ラーニングと学生の学びの関係性およびアクティブ・ラーニングを支える大学環境といった視点で議論を深めていく予定です。

シンポジスト：

河田 悌一 (日本私立学校振興・共済事業団理事長、中央教育審議会委員)

「大学教育の質的転換に向けて：中教審答申と今後の課題」

飯吉 透 (京都大学)

「アクティブ・ラーニングの是非を問う：主体的かつ効果的な学びの実現に向けて」

山田 礼子 (同志社大学)

「アクティブ・ラーニングを通じての学生の学びとそれを支える環境」

コメンテーター：塚原 修一 (関西国際大学)・Dr. Caryn McTighe Musil (AAC&U)

司 会：圓月 勝博 (同志社大学)

18:30～20:00 情報交換会 (京都ガーデンパレス)

9:00 受付開始(良心館1階ロビー)

9:30~12:00

【シンポジウムⅠ】 会場：良心館1階 RY101 番教室

テーマ：「教職協働によるカリキュラム・マネジメントの諸形態と大学人の役割」

「教職協働」は現在の大学では普通のキーワードとして定着してきた。そして、多くの大学で教職協働が行われ、その必要性が認識されている。だが、その道筋は単純でなく、それぞれの大学での組織運営、カリキュラム・マネジメントの経緯に基づいて、手探りで行われてきたのが実情である。我々はそれをいくつかの類型にまとめ、それらを組み合わせることにより、教職協働によるカリキュラム・マネジメントに共通な要素を抽出し、より効果的に教職協働を実現する道筋を拓くことを目指してきた。

課題研究に採用されて以来、3回のラウンドテーブルと1回のシンポジウムを重ね、多くの事例に接し、それらを取りまとめる理論的考察にも触れることができた。それらを元に、我々はカリキュラム・マネジメントにおける教職協働に共通の諸条件のあることを示したい。個々の大学におけるそれは建学の精神や専門性、規模、設置者、学生集団の属性、さらには置かれた社会的環境などの差異によって、多様な相貌を示している。各大学がそれらの条件をどの程度備えているかを見て取り、それに特徴的な教職協働の条件整備に努めれば、カリキュラム・マネジメントをより効果的に機能させることができるだろう。

本課題研究のまとめのシンポジウムである今回では、その諸条件を示し、それらを実現するための大学がとるべき施策を考察する。そして教職員を超えた「大学人」理念による協働実現のために、大学がどのような施策を必要とするかを出席者の皆様とともに考えたい。

企画者：秦 敬治(愛媛大学)・本郷 優紀子(桜美林大学)・今田 晶子(立教大学)・
中井 俊樹(名古屋大学)・佐々木 一也(立教大学)・清水 栄子(愛媛大学)・
竹山 優子(筑紫女学園大学)・寺崎 昌男(立教学院)

司会者：清水 栄子(愛媛大学)・中井 俊樹(名古屋大学)

提題者：佐々木 一也(立教大学)

「課題研究のまとめと教職協働によるカリキュラム・マネジメントの諸条件」(仮題)

大場 淳(広島大学)

「大学職員論・教職協働論から見たカリキュラム・マネジメント実践」(仮題)

【シンポジウムⅡ】 会場：良心館1階 RY102 番教室

テーマ：「学士課程教育における共通教育の質保証」

本シンポジウムは、本年度から開始された課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」に基づくものである。

学士課程教育の質保証は高等教育全体にとって喫緊の課題であり、日本学術会議においても分野別参照基準の作成が進んでいるところである。本課題研究では、日本学術会議の分野別質保証の議論では欠落しがちな共通教育の質保証を主要な対象とし、質保証の要となる学習成果の評価に焦点をあてた研究を行うこととし、以下の4つのサブテーマに沿って研究を進めていく予定である。

サブテーマ1：共通教育における学習成果の直接評価

サブテーマ2：数理科学分野における共通教育の質保証

サブテーマ3：共通教育における学習成果の間接評価

サブテーマ4：共通教育における質保証のためのマネジメント

今回のシンポジウムでは、本研究課題を設定するに至った経緯を本課題研究担当理事から説明したのち、4つのサブテーマの責任者から研究目的・計画・進捗状況について報告を行う予定である。

本課題研究は学会として初めて研究メンバーの公募を行い、多くの学会員から応募をいただいたことに感謝する。本シンポジウムにも多くの研究者からの貴重な意見をいただけることを期待している。

企画者：松下 佳代（京都大学）・高橋 哲也（大阪府立大学）・山田 礼子（同志社大学）・
鳥居 朋子（立命館大学）

司会者：羽田 貴史（東北大学）

シンポジスト：

羽田 貴史（東北大学）「本課題研究設定の経緯について」

松下 佳代（京都大学）「サブテーマ1の研究目的・計画・進捗状況について」

高橋 哲也（大阪府立大学）「サブテーマ2の研究目的・計画・進捗状況について」

山田 礼子（同志社大学）「サブテーマ3の研究目的・計画・進捗状況について」

鳥居 朋子（立命館大学）「サブテーマ4の研究目的・計画・進捗状況について」

12:00～13:00 昼食休憩（昼食会場：良心館地下1階生協食堂他）

13:00～15:30

【シンポジウムⅢ】 会場：良心館1階RY101番教室

テーマ：「学生支援の評価～“支援の成果”を用いた評価への転換可能性～」

本課題研究（「現代における学生支援の課題と展望」）の目的は、学生の多様化や大学教育改革の進展によって、その広さと深さを急速に増しつつある学生支援の現状と課題について理論的・実証的に分析を行い、今後の展望を得ることである。

これまでの課題研究集会と学会大会のラウンドテーブルでは、ボランティア活動支援やピア・サポートなどのテーマを取り上げると同時に、担当者の職能開発やキャリア形成についても論じてきた。最後の研究成果報告となる今回は、学生支援の評価をテーマとして掲げる。学生支援の営みが意識化され、大学教育における位置づけが明確になる過程で、支援の現状を把握し、質の改善を図る手段として、評価は避けられない問題になっている。しかし、その現状が必ずしも明らかではないことから、情報の交換・共有と理論的な知見の整理を試みたいというのが、テーマ設定の背景である。

評価の事例については、下記の通り様々な視点から報告する一方で、全体を一貫する軸として“支援の成果”を据えることにより、議論の焦点を絞りたいと考えている。大学教育一般の評価においては、1990年代から教育の成果に着目した取組が進んでいる。おなじようなことが学生支援の現場でも起こっているのかを確認すると共に、成果に基づく評価が学生支援においても有益であるのかを検討したい。

企画者：川島 啓二（国立教育政策研究所）・青野 透（金沢大学）・沖 清豪（早稲田大学）・
田中 岳（九州大学）・望月 由起（お茶の水女子大学）・串本 剛（東北大学）・
小貫 有紀子（九州大学）・小島 佐恵子（玉川大学）・橋場 論（福岡大学）

司会者：串本 剛（東北大学）

シンポジスト：（タイトルはいずれも仮題）

橋場 論（福岡大学） 「認証評価にみる学生支援の評価」

小島 佐恵子（玉川大学） 「国内事例にみる学生支援の評価」

沖 清豪（早稲田大学） 「イギリスの事例にみる学生支援の評価」

小貫 有紀子（九州大学） 「アメリカの事例にみる学生支援の評価」

【シンポジウムⅣ】 会場：良心館 1 階 RY102 番教室

テーマ：「FD の実践的課題解決のための重層的アプローチ～組織論と教授・学習観から考える FD～」

本課題研究の目的は、日本の高等教育機関の現場で生起している様々な FD の課題を、「学生の学習」に焦点をあてて、実践的に解決するための重層的なアプローチを提起しようとするものである。2 年目である本シンポジウムにおいては、マクロ・レベルの FD（全学的教育制度の改善）を考えるための試みとして、組織論の知見を FD に適応する。次にミクロ・レベル（授業の改善）の FD を考えるための試みとして、教員の教授・学習観を解明する。

井上・山内報告では、三層のアプローチを包括する概念としての「組織」に着目し、学習の質向上を目指した FD を実現する「組織」のあり方について、経営学における「学習する組織」論の知見をもとに検討を行う。

山田報告では、1 年目は学生を対象とした 2 つの調査から主に学習観に着目した分析を行ったが、今年度は教員を対象とした試行調査の結果を紹介する。教員の持つ「教授・学習観」が日常の教育活動に及ぼす影響など、学生調査の結果と比較しながら検証を行う。

企画者：佐藤 浩章（愛媛大学）・加藤 かおり（新潟大学）・近田 政博（名古屋大学）・

沖 裕貴（立命館大学）・山田 剛史（愛媛大学）・井上 史子（帝京大学）・

山内 尚子（京都産業大学）

司会者：佐藤 浩章（愛媛大学）

シンポジスト：

井上 史子（帝京大学）・山内 尚子（京都産業大学）「学習する組織論の視点からみた FD」

山田 剛史（愛媛大学）「大学教員の教授・学習に関する認知・行動・成果の関連」

指定討論者：2 名交渉中

【会長主催緊急シンポジウム】 会場：良心館 1 階 RY106 番教室

テーマ：「大学教育学会の国際化と英語名称」

本学会は 1997 年に一般教育学会から大学教育学会へと改称したが、Liberal and General Education Society of Japan という英語名称はそのまま保持してきた。しかし最近、本会の活動や本会を取り巻く環境が大きく変化し、加えて国際的な視野と規模で活動することが求められるようになってきた。緊急シンポジウムでは、本学会が大学教育実践研究を牽引してきた蓄積を踏まえて、本学会の英語名称の国際通用性を検証するとともに、合わせてこれからの英語名称のあり方について議論する。

オーガナイザー：小笠原 正明（会長）

司会者：山内 正平（副会長・前編集委員長）

登壇者：濱名 篤（常任理事・国際委員会委員長）

絹川 正吉（常任理事・元英文名称検討小委員会委員長）

寺崎 昌男（顧問・元 25 年史、30 年史編纂委員会委員長）

竹前 文夫（元監査・元常任理事）

於保 幸正（理事）

15:30 ～16:00 閉会行事（良心館1階RY106番教室）

学会会長挨拶 小笠原 正明（北海道大学）

次年度大会開催校・課題研究集会開催校紹介

閉会挨拶 2013年度課題研究集会実行委員長 山田 礼子（同志社大学）

＜課題研究集会参加申込み要領＞

課題研究集会に参加される方は、以下の要領で 1)参加申込みの上、2)参加費等の払込みを行ってください。なお、準備の都合上、事前手続きにご協力ください。事前手続きにより、参加費・情報交換会費を割引させていただきます（学生会員以外）。

＜事前手続き＞ 11月5日（火）までにお申込みの上、参加費等の払込みを、11月8日（金）までにお願ひします。期日を過ぎて払い込まれた場合、受付で当日申込との差額をいただきます。

1) 参加申込み方法

オンラインで参加申込みをお願いいたします。申込は9月18日（水・予定）より、本学会ウェブサイトの最新情報欄に「2013年度課題研究集会のご案内」が掲載される予定です。同記事より、「2013年度課題研究集会参加登録画面（<http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoiku1>）」へアクセスができます。同画面の指示にしたがってお申込みください。

[大学教育学会 URL] <http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/>

※オンライン申込みの受付後には「申込受付」メールを、申込み時に登録されたメールアドレス宛に送信します。「申込受付」を受理されましたら、参加費等の払込みをお願いいたします。

2) 参加費等払込み方法

参加費等は、郵便振替による支払いでお願いします。振込手数料はご本人の負担となります。

振替口座は以下のとおりです。参加者1名につき、払込票1枚でご入金ください。

会員の方は、同封の「払込取扱票」をご利用いただくと便利です。なお、学会の年会費の郵便払込取扱票とは別になっていますので、ご注意ください。

課題研究集会 郵便振替口座
加入者名：大学教育学会 2013年度課題研究集会
【口座番号】00920-4-302743

なお、銀行など他の金融機関からお振込みになる場合は、下記内容をご指定ください。

金融機関名：ゆうちょ銀行 支店名（店番）：〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099）

口座種別：当座、口座番号：0302743（※振込の際の口座番号桁数が異なります）

口座加入者名：大学教育学会 2013年度課題研究集会

万が一誤って締め切り後にご入金の場合、課題研究集会当日までに入金を確認できないことがありますので、ご入金時の郵便振替払込請求書兼受領証を必ずご持参ください。

領収書は、当日受付でお渡しします。

【参加費等】（事前払込期日は11月8日（金）です。）

申込み区分	会員・一般		学生 （特別割引）
	事前払込み	当日受付	
参加費（要旨集含む）	4,500円	5,000円	1,000円
情報交換会費	5,500円	6,000円	2,500円
『要旨集』のみ	1部 1,000円（送料込み）		

- ・非会員の方も参加できます。オンライン申込み後、「申込受付」のご連絡時に参加費等をお知らせしますので、郵便局に備え付けの「払込取扱票」により、上記と同様の手続きをしてください。
 - ・学生や院生の方々が参加しやすいよう、参加費および情報交換会費の特別割引をしています。会員の皆様におかれましては、非会員の学部学生や院生も含め、広く課題研究集会への参加を促していただきますようお願いいたします。また、これを機会に本学会加入呼びかけへのご協力もお願いいたします。
 - ・払込みされた参加費等は、理由を問わず返却いたしません。あらかじめご了承ください。
 - ・参加費等を払込みながらご欠席の場合は、後日、『要旨集』をお送りいたします。
- ※参加申込みとして登録された情報のうち、事前に受付けされた方のお名前と所属機関名は、当日配付する『要旨集』の「参加者名簿」に記載させていただきます。
- ※1日目の午前にプレ行事「協同学習による政策提案ワークショップ」を開催します。詳細については、参加申込み締切り後、メールにてご案内いたします。

3) 宿泊について

課題研究集会開催期間は、秋の行楽シーズンにあたり、宿泊施設の予約が困難であると予測されます。会場周辺のホテルに一定数の部屋を確保していますので、宿泊を予定されている方は下記サイト掲載の申込書により旅行代理店へお申し込みください。

【申込書はこちら】 <http://www2.kingtour.com/ev/u/?cvid=daigakukyoku2>

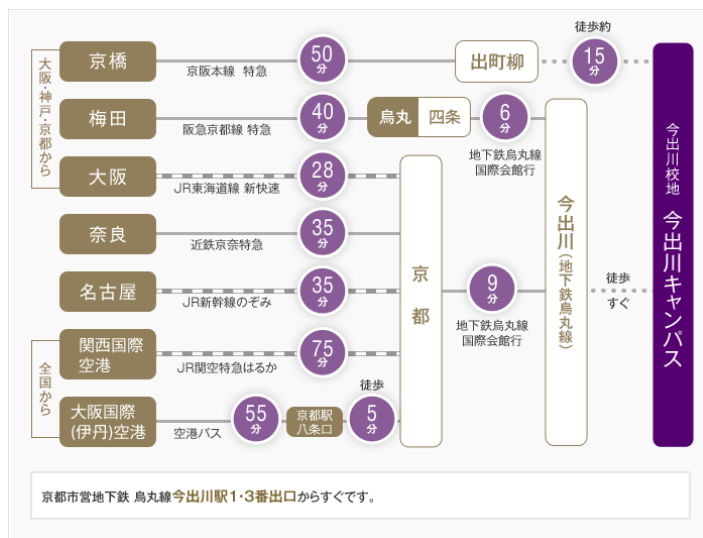
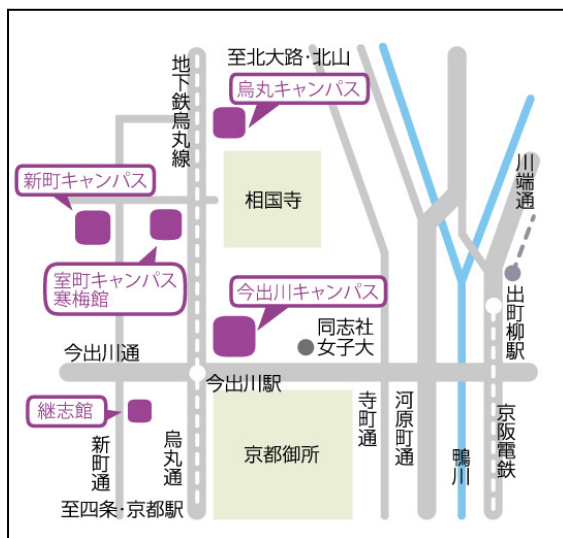
※宿泊の申込締切日＝2013年11月15日（金）

旅行代理店：(株)京王観光株式会社 大阪支店

4) 11月30日（土）・12月1日（日）の昼食

寒梅館、および良心館の食堂が営業しております。弁当の当日販売はありません。

〔会場へのアクセス〕



<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>

【2013年度課題研究集会 実行委員会 事務局】

大学教育学会 2013年度課題研究集会 実行委員会事務局

同志社大学 学習支援・教育開発センター

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL：075-251-3277

お問合せ用 E-Mail：ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

今年度(2013年度)の会費が未納の会員及び過年度の会費・会誌代が未納の会員は、速やかにご入金ください。領収書につきましては、郵便払込票の受領書をもって替えさせていただきます。

年会費等郵便振替口座 00120-4-178891 「大学教育学会」

ご入金は郵便払込票をご利用ください。やむを得ず、銀行からご入金を希望される場合は、入金前に必ず、以下の大学教育学会 学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

<「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先>

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ内

TEL:03-5907-3750 FAX:03-5907-6364

E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

今年度より、過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただきます。また、2014年大会時の発表申込み(2014年2月を予定)は、2013年度分までの会費が納入済みであることが条件となります。入金状況については、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。

※課題研究集会時(11月30日(土)12時～17時、12月1日(日)9時～14時)は、会場に学会事務局の受付を設置し、未納分の会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布等を行いますのでご利用ください。

● 会員名簿の刊行について【会員原簿登録情報の確認・更新のお願い】

2013年12月1日現在の会員情報を元に会員名簿の刊行をいたします。

本学会ウェブサイトの個人会員ページまたは団体会員ページより「会員情報の照会・更新」に進み、会員情報のご確認・情報更新を2013年11月30日迄に必ずお願いいたします。登録されている情報の確認・更新がない場合、名簿にはお名前と所属先のみが記載されますことをご承知おきください。

詳細は、同封の別紙「会員名簿発行に伴う会員原簿登録情報の確認と更新について(お願い)」をご参照ください。名簿は、2014年2月にニュースレターとともにお手元にお届けする予定です。

● 団体会員、会誌配布団体の会員番号(ID)について【ご注意】

すでにご案内しております通り、団体会員、会誌配布団体の会員番号を2012年4月より変更しております。これらの会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

<会員番号>

以前の会員番号、千の位の数字と百の位の数字の間に「0(ゼロ)」を入れた5ケタの番号です。

例：団体会員：(旧)3111→(現)30111 会誌配布団体：(旧)5011→(現)5011

● 学会関連資料のご寄贈のお願い【アーカイブズ委員会】

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等(1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004年)

課題研究集会要旨集(1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003,2004,2005,2008年)

その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

● 2013年度課題研究集会について

2013年度課題研究集会は、11月30日(土)～12月1日(日)同志社大学今出川キャンパスにて開催予定です。本文内の実施要項等に従いお申し込みください。

● 大学教育学会第36回(2014年度)大会について

2014年度第36回大会は、2014年5月31日(土)・6月1日(日) (予定)に名古屋大学にて開催予定です。
スケジュール、ラウンドテーブルや自由研究のお申込みについては次号(NL95号)にてお知らせの予定です。

● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。そのため、会員の方のお手元へのお届けが非常に遅くなります故、変更が生じた場合、迅速に会員登録情報の変更申請をウェブサイト上の会員ページよりお願い申し上げます。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2~3回、大学教育学会メール通信(メールマガジン)を配信しております。
しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスungakkai@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願い致します。

● 大学教育学会奨励賞2013年度募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。
受賞対象者は本学会会員です。2013年度の受賞対象は過去4年間の学会誌(第32巻第1号から第35巻第2号まで)に掲載された論文です。応募は自薦・他薦を問いません。

① 提出書類 <自薦>論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由(研究の意義・成果など1,000字以内) / <他薦>論文、推薦理由(研究の意義・成果など1,000字以内)

② 募集締切 2013年12月20日(金) 必着

③ 送付先 学会事務局

なお奨励賞についての詳細は、「大学教育学会奨励賞規程」(本学会ウェブサイトに掲載)をご確認ください。



【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1

桜美林大学 淵野辺キャンパス 3階

Tel/ Fax: 042-704-7014

E-mail: ungakkai@gmail.com

URL: <http://www.daigakukyoku-gakkai.org/>

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会 学会業務取扱センター

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-21-10アーバン大塚3F (株)ガリレオ内

TEL: 03-5907-3750 / FAX: 03-5907-6364

E-mail: g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp